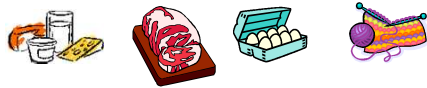


世界の家畜たち [外国の品種・日本の品種]

- 人間は昔から家畜と共に生き、家畜と助けあって生きてきた。
- とくに、牛乳やチーズ、肉や卵、羊毛などの生産物は、私たちの生活を豊かにするのに今日欠かせないものとなっている。
- しかし、いま家畜として飼われている動物たちは、昔から同じ姿をしていたわけでも、世界各地で同じ種類だったわけでもない。
- 人間が家畜に望む役割を、それぞれの家畜が最も効率よく果たせるよう、各地で長い時間をかけて改良が重ねられた結果なのである。



家畜とは『人間との共生を選択した動物たち』

- 700万年間の長い間、人間は野生動物を狩り、肉を食べ、皮や骨を利用してきた。
- 約1万2千年前、人間は犬を飼うことを覚えた。犬は人間の狩りを手伝い、人間は犬に余った肉や骨を与えた。家畜のはじまりである。
- やがて人間は、いろんな野生動物の家畜化を試みた。動物を身近に置き、餌を与え、繁殖を管理する。そして、彼らから肉や乳を取り、運搬や耕作に使い、糞を肥料にした。
- しかし、それは利益を提供するかわりに餌や安全な環境を得ることを、動物自身が選んだともいえる。

家畜と人間の歴史は動物と人間の共生の歴史なのである

哺乳綱(類)の「目」

学術用語集	旧称	含まれる動物(一部)
ネコ目	食肉目	ネコ、イヌ、クマ、タヌキ、キツネ、トラ、パンダ
ウシ目	偶蹄目	ウシ、シカ、ヤギ、ヒツジ、ラクダ、キリン、カバ、インシシ
ウマ目	奇蹄目	ウマ、サイ、バク
ネズミ目	齧歯目	ネズミ、リス、ヤマアラシ、ビーバー、ハムスター
カモノハシ目	単孔目	カモノハシ、ハリモグラ
フクロネズミ目	有袋目	フクロネズミ、コアラ、カンガルー
サル目	霊長目	サル、ヒト

分類名の変更 異議あり!

ヒトはサル目 教科書も従わす

オレは猫かと天は言ひ……

2004年4月11日朝日新聞

ウシ	
分類	
界:	動物界 Animalia
門:	脊索動物門 Chordata
亜門:	脊椎動物亜門 Vertebrata
綱:	哺乳綱 Mammalia
目:	ウシ目(偶蹄目) Artiodactyla
亜目:	ウシ亜目(反芻亜目) Ruminantia
科:	ウシ科 Bovidae
亜科:	ウシ亜科 Bovinae
族:	ウシ族 Bovini
属:	ウシ属 Bos
種:	ウシ taurus
学名	
Bos taurus ポス タウルス	
英名	
Cattle	

ラスコーの洞窟壁画
旧石器時代後期(3-10万年前)に描かれた野生のボスウシ

イギリスの印: この象徴は、インドのボスウシ(インディアナ)で牛は財産の象徴として描かれている。

野生牛と人間とのつき合いはすでに約1万5,000年前のフランスの洞窟壁画に描かれている。

やがて狩猟によって子牛が生け捕られるようになり、約9,000年前には地中海東岸地方、西アジアで家畜化された。

家畜牛の祖先種ーオーロックス (Aurochs) Bos primigenius

ヨーロッパ西部から地中海地方、アフリカ北部、中近東を経てアジアまで1927年に最後の一頭の雌牛がポーランドのヤクトロウカの森で死んで絶滅

オーロックスの復元
1921年

ベルリン動物園の園長ルッツ・ヘック

- ・スペイン闘牛のリディア種
- ・フランス南部のカマルグ種
- ・イタリアのコルシカ牛
- ・イギリスの公園牛

ミュンヘンのヘラブラン動物園の園長ハインツ・ヘック

- ・ハンガリー草原牛
- ・イギリスのスコティッシュ・ハイランド種
- ・ブラウン・スイス種
- ・ホルスタイン種
- ・イタリアのコルシカ牛

ハイランド Highland

牛 BC 6000年

牛は約8000年前、西アジアで家畜化された。牛の原種オーロックスはユーラシアとアフリカに分布していたが既に絶滅してしまった。現在見られる牛の祖先は、ヨーロッパのこぶのないボスタウルスと、アジアのこぶのあるボスインディカスの二系統である。初期は食用や運動・耕作用として用いられた。牛は力が強く持続性が高いため、ユーラシア各地で牛に引かせて農地を耕す等の利用が見られる。

牛の歴史

ボスタウルス (ヨーロッパ)

ボスインディカス (インド)

世界の牛の品種

オーロックス → ヨーロッパ牛系の家畜牛

アジア原牛 → インド牛系の家畜牛 ゼブウZebu



左♀,右♂

ゼブウ (Zebu)

- 肩峰 (けんぽう) - 背中への瘤 (二次性徴で、オスではメスよりも大きい。ここに蓄積される脂肪によって、早産や飢餓に対処している。)
- 垂皮 - 一体の皮膚は弛緩して体から襞状に下がり、部位により頸垂、胸垂、腹垂という。耳も大きく垂れている。

体重あたりの体表面積はヨーロッパ系牛より12%も大きく、高温環境下の体熱放散に役立っている。

優れた耐暑性と熱帯性の風土病に対する抵抗性の高さから、東は東南アジア一帯、西はアフリカへと分布を広げていった。

用途によって体型が異なる

家畜は用途によって、その体型を変えてきた



野生の牛



乳用牛は後軀が大きい



肉用牛は長方形



役用牛は前軀が大きい

牛の場合、乳用牛は後軀(こうく)が大きく改良され、逆に役用牛は前軀(ぜんく)が大きく改良されてきた。

肉用牛はたくさんの肉がとれるように改良された結果、長方形に近い型に変化してきた。

乳用種

ホルスタイン Holstein Friesian

ホルスタイン・フリージアン



オス



メス

- ☑ 代表的な乳用牛の一種。2,000年以上も前にドイツからオランダへ移住民がつれてきたものがルーツとされる最も古い品種。
- ☑ 古くは乳肉兼用の品種であったが、ドイツ・ホルスタイン地方からアメリカに輸出されてから乳専用品種として改良された。
- ☑ 体型、体格
アメリカ型 - 乳用(くさび)型
ヨーロッパ型 - 乳肉兼用型
- ☑ 日本には北アメリカから改良されたものが導入された。
- ☑ 毛色は黒白(白黒)斑まれに赤白斑
- ☑ アメリカ、カナダ、イギリス、オランダ、ドイツに多い。

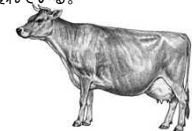


乳用種

ジャージー種 Jersey



イギリス、デンマーク、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドに多い。



ジャージー種

- ☑ イギリス海峡にあるジャージー島原産。
- ☑ 褐色の小型のウシで体型は典型的な乳用型を呈す。
- ☑ 乳量は年3500kgくらいであるが脂肪率が約5%と高く、脂肪球も大きいのでバターの原料乳として優れている。



乳用種

ガーンジー種 Guernsey



イギリス、カナダ、アメリカに多い。

- ☑ イギリス海峡にあるガーンジー島原産。
- ☑ 褐色に白斑があり体はジャージー種よりやや大きい。
- ☑ 能力も同程度だが、気候風土への適応性に富んでいる。



肉牛の品種

世界の三大肉用種



ショートホーン



アバディーン・アングス



ヘレフォード

肉用種 ショートホーン種 Shorthorn




- イギリスのイングランド原産。
- 毛色は、褐毛、白毛、粕毛(かすげ)のものがある。
- 大型で、体重650～1000kg。
- 早熟早肥で肉質もよい。

アメリカ、アルゼンチン、ブラジル、オーストラリアに多い。

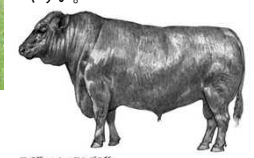


肉用種 アバディーン・アンガス種 Aberdeen Angus




- イギリスのスコットランド原産。
- 毛色は黒色で、完全無角。
- 体重530～900kg。四肢短く典型的肉用型。
- 肉質良好だが、皮下脂肪が付きやすい。

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチンに多い。



アバディーン・アンガス種
世界畜産動物学協会認定品種登録番号

肉用種 ヘレフォード種 Hereford




- イギリス・イングランド南西部のヘレフォード州原産。
- 毛色は赤褐色で、顔面白と体の上下の線が白色。
- 体型は大型、体重600～1000kg。
- 体質強健で粗飼に耐えるが肉質は劣る。
- 元来有角の品種であるが、無角の品種が作出されている。

アメリカ、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、オーストラリアに多い。

肉用種 シャロレー種 Charolais




- フランス原産。
- 毛色は白みがかったクリーム色、大型のウシ。
- 体重700～1200kg。
- 発育がきわめて早く、肉は脂肪が少なく赤肉の比率が高い。
- 肩しりが丸いのが特徴。

フランス、ドイツ、ロシアに多い。



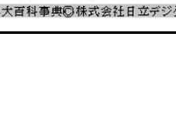
シャロレー種
世界畜産動物学協会認定品種登録番号

馬



脊椎動物門	Vertebrata
哺乳動物綱	Mammalia
奇蹄目	Perrssodactyla
馬科	Equidae
馬属	Equus
馬	Equus caballus




ウマの進化。体型の比較(左)と前肢の比較(右)

世界大百科事典©株式会社日立デジタル平凡社



1. 草原型 steppe form
モウコノウマ
ブルツェワルスキー馬



2. 高原型 plateau form
タルバン [復元]

1. 草原型 steppe form
2. 高原型 plateau form
3. 森林型 forest form

1879年ブルツェワルスキーがキルギスで発見
モンゴル西部と中国北東部の半砂漠山岳地帯

タルパンー中近東から南欧、北アフリカにまで分布

ドイツ西南部の森林に分布

ウマの家畜化

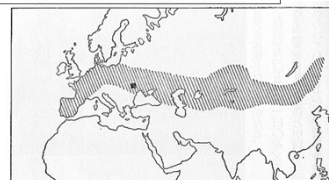
プルツェワルスキー馬 n=66
家畜馬 n=64

他の主要家畜（ウシ、ヒツジ、ヤギ、ブタ）に比べると、時期的にはかなり遅れている。

- ・家畜化の場所も、他の主要家畜の家畜化中心（西アジア）からかけ離れている。

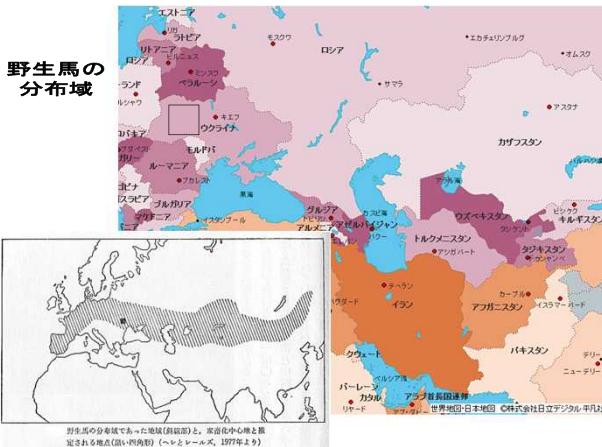
東南ヨーロッパ
とくに黒海北岸のウクライナ地方からダニューブ河流域にいたる草原地帯

高原型タルパン？



野生馬の分布域であった地域(斜線部)と、家畜化中心地と定される地点(黒い四角形)。(ヘビとヒューズ、1977年より)

11/11/2019



確切放射能地帯 / 9室 立ち入り禁止区域



兵器としての馬—戦車と騎兵

軍事利用



ハビロニアモハンムラビ

歴史にうづく報復の教え

朝日新聞2004年5月8日



アラブ Arab
 ■アラビア半島中部の砂漠地帯の原産。
 ■体格は馬としては小型、体高145-150cm。
 ■速力はサラブレッドに及ばないが、持久力に富み、粗食に耐え、粗放な管理によく耐える。

軽種



サラブレッド Thoroughbred
 ■イギリス原産の競争馬。アラビア、トルコ、ペルシアなどからタルバン系東洋馬を導入、在来馬に交配した。
 ■17世紀末に、現代サラブレッドの始祖となった3頭の種雄がイギリスに導入された。
 ■今日のサラブレッドの雄系はこの3頭にいきつく。



ベルシュロン Percheron
 ■フランス原産。
 ■大型のものは体重750kgくらい。茸毛、茸毛が多い。
 ■1886年に北海道に入り、農馬の改良に貢献した。

重種



ブルトン Breton
 ■フランス原産。
 ■中間種に近いものから重大なものまで、タイプはさまざまである。
 ■戦後、重種系が輸入され農馬の改良に用いられた。
 ■栗毛が多い。

在来馬






北海道和種 木曾馬 対州馬 御崎馬

■いずれも顔面や四肢の白微はなく、背中に縋線(まんせん)をもつものが多い。
 ■たてがみや尾毛が豊かで、体型は粗野であるが、体質強健、粗飼に耐える。

ブタ



分類	
界:	動物界
門:	脊索動物門
亜門:	脊椎動物亜門
綱:	哺乳綱
目:	ウシ目(偶蹄目)
科:	イノシシ科
属:	<i>Sus</i>
種:	<i>scrofa</i> (又は <i>domesticus</i>)
学名	
<i>Sus scrofa</i>	
和名	
ブタ	
英名	
Pig	

豚の品種

外国品種

明治末期、わが国は中型種である中ヨークシャー、パークシャーを輸入し、全国の農家にひろがったが、昭和35年に米アイオワ州から山梨県へ大型種であるランドレース、ハンプシャーが寄贈されたことから、以降は中型から大型種中心へと変化した。

スス・スクローファ



豚 BC 6000年

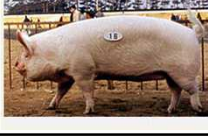
豚は約8000年前、農耕開始後、中国と西南アジアで家畜化された。豚の原種はイノシシで、アジアのスス・ヴィタートゥスとヨーロッパのスス・スクローファの二種がある。イノシシは肉の味が良く生肉の消費の対象となっていた。イノシシは雑食性で人間の残飯や排泄物、食った動物を食うことから、農耕定住民の生活に合い、家畜となった。そして、猪突猛進で知られるイノシシが、脂肪の多い肥満な豚に変化したのである。



ランドレース
 デンマークで改良して成立したデンマークランドレース種が基礎となった一豚の品種。体毛は白色、耳は垂れ、体長が長く、後肥が充実している。成体重はオス300kg、メス270kgになり、背脂脂肪が厚く赤肉率が極めて高く、発育が早く飼育能力も高いのが特徴である。日本では昭和35年に輸入を開始。その能力の高さから従来飼養されていた中ヨークシャー種を押さえて急速に普及した。



大ヨークシャー
 イギリス・ヨークシャー原産の白色、大型の品種で待種に富み、成体重はオス370kg、メス340kgになる。全体的におもね長方形。顔は長めで、顔面はわずかにしゃれている。赤肉率が高く、ベーコン加工の原料として高い評価を得ている。発育も早く、世界中に広く飼われている代表的な品種で、日本でもランドレース種について多岐飼育されている。



中ヨークシャー
 ヨークシャー原産の白色、中型の品種。中国種の影響を強く受けている。性成熟は早いが発育は遅い品種である。成体重はオス250kg、メス200kgになる。脂肪が多い肉質はよく、昭和30年(1955)頃までは日本の豚の95%を占める主要品種だったが、発育が悪い大型種に比べて飼養は減速した。



デンマーク



ヨークシャー



中ヨークシャー



パークシャー
イギリスパークシャー州原産の黒色で、鼻端と四肢の先と尻の先の計6か所が白く「黒六白」といわれる毛色の特徴を持つ中型種。パークシャー州の在来種を基盤に、シヤムス(タイ)、ネアポリタン(イタリア)、チャイニーズ(中国)などを交配して改良し、1982年頃固定品種として公認された。肉質が優れ、日本では鹿児島地方に多く飼育されており、「黒豚」の名で親しまれている。





ハンプシャー
北米コンバルト地帯原産の品種。毛色は黒地に肩の部分に白い帯がある。性質は活発、採食性が強いので放牧に適している。成体重はオス300kg、メス250kgになり、体質は強健であるが、耐暑性がやや劣る。アメリカの他カナダやヨーロッパでも普及し、日本には昭和40年代に輸入され普及したが、現在はほとんど飼われていない。





デュロック
アメリカ東部原産の赤色の品種。ニュージャージー州のジャージーロットとニューヨーク州のニューグロットとが主体となつて作られた品種である。大型に近く、全体的におむね円状。顔は長めで、顔面はわずかにしゃくれ、耳は立っているのが先づきの2つが前向きな半垂耳。主要な雄系品種として肉質頭数も多い。体質は強健で飼いがやすいが、四肢の放散が出やすいのが欠点である。





ニワトリ

分類	
界:	動物界
門:	脊索動物門
亜門:	脊椎動物亜門
綱:	鳥綱
目:	キジ目
科:	キジ科
属:	Gallus
種:	gallus
学名	Gallus gallus
和名	
ニワトリ	
英名	Domestic Chicken

鶏の品種

外国品種
現在、卵用種は白色レグホーンの系統同士の雑種や、白色レグホーン、横斑プリマスロック、ロードアイランドレッドとの交雑種が多い。

肉用種は昭和36年に米国からブロイラー専用種（雌系は白色プリマスロックやニューハンブシャー、雄系は白色コーニッシュの交雑種）が導入され、昭和40年には鶏肉の半数に至った。

ガルス・ガルス

祖先種

- 東南アジアに広く野生するセキショクヤケイ(赤色野鶏)
- インド西部のハイロヤケイ(灰色野鶏)
- スリランカのセイロンヤケイ(セイロン野鶏)
- スンダ列島のアオエリヤケイ(緑襟野鶏)



セキショクヤケイ(赤色野鶏)



セイロンヤケイ(野鶏)

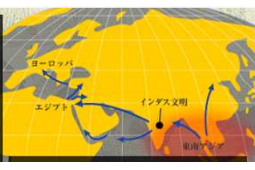


アオエリヤケイ(緑襟野鶏)



鶏 BC 2000年

鶏は約4000年前、東南アジアで家畜化された。鶏の原種は赤色野鶏をはじめとした種々の野鶏である。インダス文明を経て、約3500年前には海路貿易を通じてエジプトに鶏が伝わっている。約2000年前にはメソポタミアと小アジアに伝播、約1300年前にペルシア帝国を経てヨーロッパへ伝わった。一方中国へも約2700年前に漢路が伝えられた。肉用、他、食用、薬用として飼が利用され、また 毬懸、古闘闘、時給代わりとしても用いられてきた。





白色レグホーン
イタリア原産の卵用種で、産卵能力が極めて優れている。軽快な体型で、体重はオス2.8~3.4kg、メス1.8~2.5kg。羽色は白色、とさは単冠で耳たぶが白色である。育種家により多くの近交系がつくられていて、その交配系が実用種として使われている。日本で作られた「黒豚ク羅斯」は白色レグホーン種オス系とロードアイランドレッド種メス系の一代雑種である。





白色プリマスロック
横斑プリマスロック種の白色変異型の卵肉兼用種であったが、現在は肉用に改良された。体重はオス5.0kg、メス3.5kgで、産卵能力が年160~200個と白色コーニッシュ種より高いので、ブロイラー生産のメス系として利用されている。卵殻色は褐色である。





白色コーニッシュ
イギリスでインド原産の赤色アール種、オールドイングリッシュゲーム、マレイ種を交配してつくられた褐色の肉用種の品種を、仕上がりをよくするために羽色を白色に改良した肉用種である。成体重はオス5.5kg、メス4.0kgで、成長速度は現存する品種の中で一番速い種である。白色コーニッシュ種に白色プリマスロック種を交配したものが世界のブロイラーの大半を占めている。





ニューハンブシャー
アメリカのニューハンブシャー州でロードアイランドレッド種から分離して作出された。羽色はロードアイランドレッド種よりやや淡いコンゴア斑、とさは単冠である。産卵数は180~200個で、肥育性にも優れている。卵肉兼用種であるが、ロードアイランドレッドより肉用に偏っている。





ロードアイランドレッド
アメリカのロードアイランド州でコーチン、マレー、ジャバ型のアジア系などを用いて作出された卵肉兼用種で、羽色は濃い赤褐色で、尾羽や頸(くい)羽が黒いコンゴア斑である。耳たぶは赤く、とさは単冠かバラ冠で、産卵数は200~250個である。ロードアイランドレッド種と白色レグホーン種を掛け合わせた一代雑種がロードホーンである。

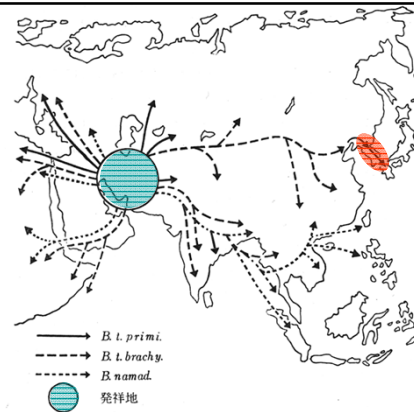




黄斑プリマスロック
アメリカのマサチューセッツ州原産の卵肉兼用種で、肉質は数派といわれている。羽色は黒白の模範(しま)、とさは単冠である。耳たぶは赤く、産卵数は年150~250個、改良されたものでは年365個の記録も出ている。長期間産卵し、三年齢でもよく産む。卵質がよく美味で、自然卵産鶏に数選といわれる。横斑プリマスロック種と白色レグホーン種の一代雑種がロックホーンである。



わが国の家畜たち



ウシの伝播経路 (Payne, 1970 より改写)



韓牛♀

韓牛♂

朝鮮牛は、肉資源としてまた、役用として性質温順で労働意欲が高く、体質強健、耐久力に富み、粗放な管理に耐え、役用能力の高いことに加えて価格が安かったので、農家に歓迎された。

日本での始まり [役用牛]

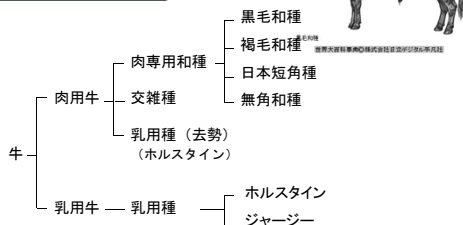


山口県萩市の見島に残る黒毛の見島牛

日本に牛が伝えられたのは弥生時代、稲作伝来と同じ時期である。大陸からの移住者が稲作と共に田を耕作する牛を日本に持ちこんだ。

弥生時代の遺跡から牛の骨が発見されている。中世から近世にかけて役用牛の利用がすすみ、日本での品種改良が進められ、淡路牛、丹波牛、但馬牛、出雲牛、越前牛などの産地ができた。

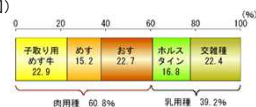
わが国で飼育されている主な牛



ホルスタイン種

肉用牛の飼養動向

飼養頭数割合 (全国)



★ 飼養されている肉用牛のうち、肉用種が6割、乳用種が4割を占めています。
★ 都道府県別には、北海道の飼養頭数が最も多く、鹿児島、宮崎と続きます。

飼養頭数割合 (都道府県)



資料:『畜産統計(平成15年2月1日現在)』

交雑種

交雑とは異なった品種間での交配を指し、交雑によって生まれた子牛を**交雑種**という。

利点

1. 異なった品種や系統間で交配を行うと、親牛よりも優れた能力を示す**雑種強勢**が現れるため、体格や発育面で優れた牛が生まれることがある。
2. 和種に比べて育てやすく、短期間で出荷できるので、生産コストの引き下げや生産量の増加が期待できる。

近年では、ホルスタイン種と和種の交雑種(F₁)や、F₁雌牛を繁殖に用いた交雑種の生産が増加している。

成牛の生産頭数の約22%（平成16年、畜産統計調査）を占めている。

肉専用和種

和種とは日本で改良された牛

黒毛和種

- ▣ 小型で成長の遅かった在来種に、明治末に導入したシンメンタール種、エアシャー種、ブラウンスイス種などの外国種を交配させて改良固定されたもので、昭和19年に命名された。
- ▣ 九州、東北、中国地方で多い。
- ▣ 和牛の使用頭数の約90%。
- ▣ 特徴－黒の単色。
（毛、角、蹄、粘膜－黒色）
- ▣ 肉質に優れる（筋線維は細く、肥育すれば脂肪が筋線維の間に細かく沈着した極上の「霜降り肉」を作り出す）。



黒毛和種の成立に関わった外国品種



エアシャー

デボン



ブラウン・スイス

ショートホーン

島根県ではデボン、広島県ではショートホーン
兵庫、鳥取県ではブラウン・スイスやエアシャーが交配された。

褐毛和種

- ▣ 熊本県と高知県の赤牛を基礎とし、これに明治以降、シンメンタール種と朝鮮牛で改良した品種。
- ▣ 東北、北海道にも飼育。
- ▣ 骨太で体格がよく、成長が早い。
- ▣ 肉質も黒毛和種に近く、体質は強健で暑さに強い。



日本短角種

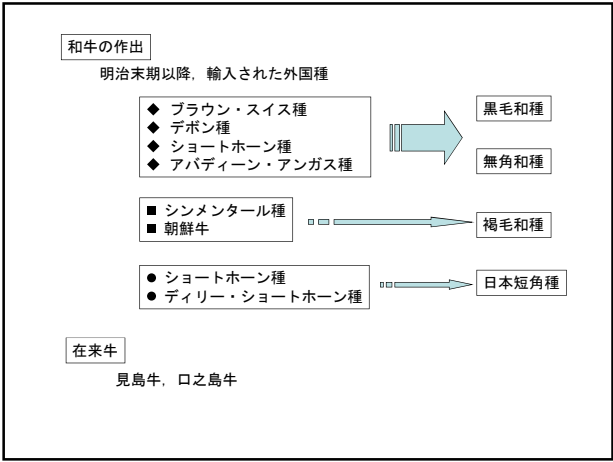
- ▣ 東北地方北部原産の肉用種で、南部牛にイギリス原産のショートホーン種を交配して改良が進められた。
- ▣ 岩手、青森、秋田の各県が主産地で、北海道でも飼育されている。
- ▣ 毛色は褐色で濃淡さまざま。
- ▣ 肉質は筋線維が粗く、脂肪交雑は黒毛和種に比べて劣るが、骨太で体格がよく、飼育に手間がかからず成長が早いので、放牧に向いている。



無角和種

- ▣ 山口県阿武郡で在来牛をアバディーン・アングス種によって改良した品種。
- ▣ 毛色は全身が黒色で、無角。
- ▣ 体全体が丸みを帯び、体の幅があって肉用牛らしい体型。
- ▣ 成長が早く、飼料の利用性も良好だが、肥育が進むと皮下脂肪が厚くなりやすい。





乳用種

わが国の国産牛肉の約55%をまかなっているのが乳用種と交雑種。

乳用牛のホルスタイン種の雄牛を去勢して、穀物を主にした飼料で生後20ヵ月前後まで肥育し、750 kg前後で出荷する。

和種に比べると淡泊な味わい。



ホルスタイン

いろいろな銘柄豚



鹿児島黒豚

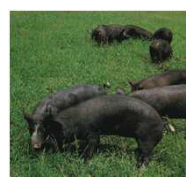
黒豚ってなに？

豚の高級ブランドとして鹿児島県の「黒豚」が有名だが、鹿児島県では独自の基準を設けて「鹿児島黒豚」として商標登録している。

「鹿児島黒豚」は

- ・ 日本種豚登録協会の定める品種基準に基づくパークシャー種のみ
- ・ さつまいもを10～20%添加したエサを60日間以上与える
- ・ 鹿児島県内で生産し、育てたもの

などの基準をクリアした豚だけとされている。



TOKYO X

梅山豚



金華豚



猪豚



日本鶏

古来からわが国で飼養されてきた数々の日本鶏は、日本人が姿や声を楽しんだ特有の文化遺産であると同時に、各地の伝統的な郷土料理を育む土台にもなった。

これらは世界に誇る遺伝資源として、17種が天然記念物に指定されている。

東天紅(とうてんこう)	声良(こえよし)	唐丸(とうまる)
小国(しょうこく)	地鶏(じどり)	尾曳(おひき)
養曳鶏(みのひきどり)	黒柏(くろかしわ)	鶏尾(うずらお)
比内鶏(ひないどり)	地頭鶏(じとっこ)	烏骨鶏(うこっけい)
矮鶏(ちやぼ)	尾長鶏(おながどり)	
軍鶏(しゃも)	薩摩鶏(さつまどり)	河内奴(かわちやっこ)

長鳴鳥 美しい姿態 闘鶏用

